



先輩農家から指導を受ける石田さん

石田 ^{きょうすけ} 恭介さん (32)

[JA 南さつまピーマン部会
新規就農者研修生]

南さつま 縁 人

VOL.44

MINAMISATSUMA ENGINE

「喜ばれるピーマンを」
本市は県内にある促成ピーマン産地の中で最も古く、50年以上の実績があります。水はけの良い砂丘地帯で丁寧^{ていねい}に育てられ、肉厚で色・形・食味が良いピーマンは、加世田ピーマンと称され、市場でも高い評価を得ています。
現在、加世田ピーマンの産地を支えているのは、JA南さつまのピーマン部会員14名で、約2.9^{ろく}畝^{せき}で生産しています。ピーク時には25人が約8^{ろく}畝^{せき}で生産していましたが、高齢化や後継者不足により減り続け、今に至っています。
そのような中、各種農産物の生産者数や栽培面積の減少が続く現状を打開し産地を維持する目的で、JA・県・市が連携し新規就農者研修制度を整えています。今回初めて同ピーマン部会がこの制度を利用して研修生を迎え入れました。関係者は「以前のような産地復活の足掛かりになれば」と期待を寄せています。
研修生の石田さんは、県外で建築土木関係の職に就いていま



加世田高橋のピーマン産地

したが、新型コロナの影響で収入が不安定になったことから、同ピーマン部会副部長である叔父に相談し研修を決めたそうです。
研修は今年の5月から1年間の予定で、播種から定植の仕方、ハウスの温度管理や灌水、施肥のタイミングなどを先輩農家から学び、10月からは本格的な収穫が始まっています。
石田さんは、「叔父が作るピーマンは本当に甘くて美味しい。農業は全くの初めてで不安はあるが、手が掛かる分だけ愛着も湧く。早く一人前になって皆に喜ばれるピーマンを作りたい。また、自分のような若手生産者が増えることで地域活性化に繋がっていただければ嬉しい」と話しました。

南さつま市に住む人、働く人、生き生きと活動している人を、南さつま市の輝く原動力（エンジン）としてご紹介します。